

第4回「釧路湿原川レンジャー」学習会 が開催されました

15名が学習会に参加

平成19年3月27日（火）、第4回の釧路湿原川レンジャー学習会が開催され、15名が参加しました。今回は北海道教育大学釧路校生物学研究室の蛭田眞一博士を講師に迎え「ウチダザリガニの正体」の講演がありました。

続いて、釧路開発建設部治水課渡辺治水専門官から「釧路川の水質について」の報告を受けました。

北海道教育大学釧路校教授 生物学研究室 蛭田 眞一 博士

「ウチダザリガニの正体」の講演内容

- ・ 現在、地球上で生息する生物はいろいろ学説はあるが、推定で数千万～2億種はいるだろうといわれており、その内、名前を持っている生物は、現在、150万種～175万種といわれており、わずか数%しか知られていない。
 - ・ その内、昆虫や甲殻類が圧倒的に多く、既知種数の約90%を占めており、ザリガニがこれに入り、地球上のザリガニの種類は、1988年に北半球で349種、南半球で126種と報告され、現在では500種を越えている。
 - ・ 日本に生息するザリガニは、ニホンザリガニ、ウチダザリガニ、アメリカザリガニの3種類で、滋賀県のタンカイザリガニと呼ばれているのはウチダザリガニと区別がつかず同種と考えられている。
北海道はこの3種類のザリガニが生息している。
 - ・ ニホンザリガニは北海道や東北北部に生息する在来種で、ウチダザリガニとアメリカザリガニは1930年頃に食用ガエルの餌や食用としてアメリカから持ちこまれ全国に広った。
 - ・ 北海道東部には1930年、摩周湖に476匹が放流され、そこから人が持ち出して広まったと考えられ釧路川や釧路湿原、阿寒湖、春採湖などに分布している。1995年頃の調査では釧路湿原周辺の河川全てにウチダザリガニが生息していた。
 - ・ ウチダザリガニは環境に順応しやすく、1週間に1度程度水温を上げて30度になっても生息できるほど適応力を持っている。雑食性で水底の動植物はほとんどが餌となり、繁殖力も非常に強い。
 - ・ 春採湖での調査では、湖のほぼ全域に生育していることが分かった。底に巣穴を掘り、ヒブナの卵やマツモなどを餌にし、環境に深刻な悪影響を及ぼしている。
 - ・ ウチダザリガニを見つけたら「その場所から絶対持ち出さない。もとの場所に戻せない場合は処分する」。
 - ・ ニホンザリガニを見つけたら、「よく観察する。他の池や川などに放さない。絶対持ち出さない。」
- などの講演をしていただきました。



蛭田 眞一 博士



20cmもあるウチダザリガニの標本

水質調査の報告と意見交換

住民協働による水質調査の目的と視点

目的

北海道開発局では、北海道内の主な河川で地域住民の方々と協働して水質状況を調査しております。

この調査は、川の水質を地域住民の方々に直接確認していただきながら、川に対する意識を高めていただくことを主な目的としています。

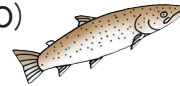
視点

- 1) 人と河川の豊かなふれあいの確保・・・水浴、親水空間として適しているか？
- 2) 豊かな生態系の確保・・・生物の生育・繁殖環境として適しているか？

調査の概要

標茶町開運橋と釧路町岩保木で行いました。

- 1) ゴミの量・水の臭い・川底の感触・流速・透視度などを調査
- 2) 簡易水質調査器具による水質の測定(PH・COD・NH₄-N・PO₄-DO)
- 3) 水生生物を捕獲・観察し、水の「きれいさ」を判定する



水質調査(8月2日)の報告

- 1) 人と河川とのふれあいの視点では、糞便性大腸菌群数が1000(個/100ml)を越えていました。
- 2) 豊かな生態系の確保の視点では、生物の生息・生育、繁殖環境として良好な状態にあるという結果になりました。



今回の調査結果だけで評価するには調査データが少ないため判断できませんが、川の水質は日々変化しますので、今後も定期的にチェックしていく必要があります。

※ 第2回学習会に実施した水質調査の詳細は「H18川レンジャーNews-vol 3」に掲載しております。

融雪期の水質事故防止に向けて

- ・ 釧路川など全道の主要河川で、油類や家畜の糞尿、化学物質などの汚染物質が流れ出る水質事故の発生件数が増えております。
- ・ 水質事故の90%以上は油類の流出で、特に融雪期の3月、4月に多発する傾向にあります。
- ・ 融雪期に多い原因は、油の需要期である厳冬期に地面にこぼれた油が、暖くなる季節に雪どけ水と一緒に川へ流出すると考えられます。
- ・ 川に油のようなものが浮いていたら、すぐに釧路開発建設部へご連絡を！

意見交換

川レンジャーの皆さんからの意見です

- 新釧路川で密猟者や暴走族と思われる車で堤防法面を上がったりがったりして、芝生がひどく傷んでいた。
- 堤防のゲートが頻繁に壊されている。
- ゲート周辺の法面に大きなブロックを置くと4輪駆動車でもすり抜け出来ない。
- 河畔公園野球場の芝生が車の進入で傷んでいる。



第4回学習会に参加した川レンジャーのみなさん